

「ふれあい花壇」は社会生活への道しるべ

熊本県立荒尾支援学校高等部

1 花苗の生産活動スタート

高等部一般学級（生徒数65人）では、キャリア教育の充実に向け「いのちの大切さを感じる心を育むこと」を目的に、平成23年秋から授業で「花苗の生産活動」を本格的に導入しました。初年度は半期で約500ポットの花苗を生産することができ、学校行事の販売活動を通じて、保護者や地域の方々へ花苗を提供することができました。

2 花いっぱい为学校

2年目（平成24年度）は、自分たちの学習活動に自信を持った生徒たちから「花いっぱいの学校にしたい」との提案がありました。そこで、販売用の花苗生産に加えて、校内の花壇や学校の式典などで使用する装飾用プランターの花苗生産にも取り組みました。そして、春作と秋作の年2回の花植替えを実現し、2年目は約5,000ポットの花苗を生産することができました。同様に、3年目（平成25年度）は年間約7,000ポットの花苗を生産し、春から夏の間は日々草、ペチュニア、千日紅などの花が花壇を飾り、秋から冬にかけてはパンジーやビオラが寒さに負けず鮮やかな色で花壇を彩りました。「花が印象的な学校ですね」（来校者）、「学校が明るくなりましたね」（保護者）など、生徒たちを称賛する言葉を数多くいただくようになり、生徒たちが掲げた「花いっぱいの学校にする」という目標を見事に達成することができました。

3 （株）LIXIL有明工場（長洲町）との交流及び共同学習

平成25年秋、就業体験（現場実習）でお世話になった（株）LIXIL有明工場から大型プランターの花の植替え依頼がありました。会社の人事担当の方に、高等部の花苗生産の学習活動を認められての実現でした。生徒たちの頑張りや、地域の方々に認められたうれしい瞬間でした。翌春には、有明工場に隣接する「有明ソーラーパワー」に新しく花壇を作り、「ふれあい花壇」と名付けて本校の生徒と社員の方々と一緒に管理していくことを会社側から提案されました。学校以外で、継続的に社会生活を学ぶことができる重要な学習の場になると考え、企業との連携による共同学習をスタートさせることにしました。

花苗生産を始めてから5年目の今年度は、年間約12,000ポットの花苗を生産予定です。6月上旬、「ふれあい花壇」（72m×2m）に生徒たちが生産した約1,800ポットの花苗の植え付けを社員の方々と一緒に行いました。今年度は花苗の植え付けだけではなく、年6回程度、花壇や大型プランターの栽培管理を会社訪問して実施予定です。生徒たちは卒業後の生活に向けた実践的な学習に取り組むことができます。生徒たちから「会社の方々に喜んでもらえてうれしい」「はやくLIXILに行って花の手入れをしたい」など、学習に意欲的な発言が増えてきています。

「社会生活への道しるべ」として、今後も企業との連携・協働を推進し、生徒たちのキャリア発達を促すことができる授業実践に努めていきます。

